

会員の皆様、支援者の皆様、事業でお世話になった皆様、昨年度も大変お世話になりました。茨城 NPO センター・コモンズは、2012 年度より下記ミッションのもと活動を進めて参りました。

ミッション

COMMONS は、
社会のために何かしたい人、NPO という道具を活かしたい人を応援することで、
組織の壁・心の壁を越えて、
人がつながり共に行動する市民社会の実現を目指します。



また、昨年度総会で決定された事業計画では、上記のミッション達成のため下記の目標を掲げました。

中期的活動コンセプト

昨春策定された『茨城県新しい公共推進指針』では、全ての人が社会から取り残され孤立することのない「居場所」と「出番」のある社会、持てる力を発揮でき、いきいきと暮らせる社会を共に創るとして、2030 年までの市民、コミュニティ団体、NPO の取り組みを打ち出しましたので、その具体化を進めます。

2013 年度活動方針

1. コモンズは、様々な生活上の困難を抱えている人々の問題を解決に導くために、公的な社会諸制度だけでなく、地域が持つ様々な資源を活かす社会的なネットワークづくりに貢献します。
2. 地域にある福祉課題や資源の調査、団体間の連携、コーディネート人材の育成に取り組みます。
3. これまでに培った他セクターとの連携、地域円卓会議、いばらき未来基金という参加と協働の仕組みを、具体的な茨城の地域課題の解決に結びつけ課題解決事業のモデルをつくり、社会に発信します。

2013 年度成果目標

- ① 寄付者やボランティアなどに支えられる「寄付募集モデル団体」が、新たに 15 団体生まれている。
- ② NPO 等がネットワークを築き、共創型のコミュニティのモデルが複数生まれている。
- ③ 「茨城のために寄付したい」という県民（人および組織）が 30,000 人、寄付に参加している。
- ④ 福島からの避難者と茨城県民の交流が広がり、共同での活動や助け合い活動が増えている。
- ⑤ 外国人児童生徒の教育保障への関心が高まり、学習支援ボランティアや教室が広がっている。

これらの成果目標が、2013 年度にどれくらい達成できたか、またどのような事業を行ったのか報告させていただきます。

各成果目標達成状況

2013 年度の成果目標①

寄付者やボランティアなどに支えられる「寄付募集モデル団体」が、新たに 15 団体生まれている。

◇ なぜこの事業に取り組んだのか

茨城県内では、寄付やボランティアの募集に積極的に取り組む市民活動団体がまだ少ない。また会計や税務、労務、ガバナンスなど組織基盤が整っていない団体も多い。長年活動実績を積み重ねてきた組織が、ガバナンスや会計上の問題点から、機能不全を起こす例もいくつか出てきている。

◇ 何をどのように変えようとしたのか

市民から信頼され、寄付やボランティアを通じた市民参加が活発で、委託事業などに過度に依存しない団体を増やすことで、足腰の強い市民社会の実現を目指した。また、会計基準を導入する NPO 法人を増やすことで、NPO 法人に対する信頼性向上に努めようとした。



実践！市民団体のファンドレイジング講座

◇ 何をしたのか

NPO 法人会計基準がどの程度普及しているのか把握するため、県内全 NPO 法人の決算書類をもとに、会計専門家などと全国統一「NPO 法人会計基準普及調査」を昨年度に引き続き行った。その他、会計支援茨城として、NPO 支援に関心のある税理士や公認会計士を対象に勉強会などを開催した。また「フューチャーセンター ∞ 茨城」開催に合わせた専門家による相談会も開催し、専門家と NPO との接点づくりに取り組んだ。

また会計、税務、労務、ガバナンスなどで、地域で実績のある NPO から組織運営に関する深刻な相談を受けることが相次ぎ、それら団体に定期的に訪問を重ねた。代行作業なども一部行いながら、組織が安定するよう、よりそい型の支援を展開した。

さらに「実践！市民団体のファンドレイジング講座」を 4 回開催し、ダイレクト・メールや募金箱、イベントの活用、企業へのアプローチなど様々な手法を使った寄付募集のコツを学ぶ機会をつくった。また、組織基盤強化に関するワークショップを開催した。

◇ どのような成果が得られたのか

NPO 法人会計基準普及調査を通じ、県内で会計基準が徐々に普及していることが把握できた。また会計専門家にとっても、NPO 法人の会計の実態を知る機会となった。会計専門家と一緒に会計相談対応を行う場面はあまりつくることができなかったが、会計相談対応の際、どのタイミングから会計専門家に相談に関わっていただくか、ケースをもとにした相談対応ルール構築の必要性が明確になった。

また個別相談対応を通じ、単発の相談対応ではない、よりそい型の組織基盤強化の支援モデル構築につなげることができた。

◇ 今後どうしたいのか

定期的に各地域巡回 NPO 相談会を開催し、そこに支援者として参加する会計や労務などの専門家が多くの NPO と出会う機会を仕組みとして設けたい。また、2013 年度に行ったよりそい型相談対応を支援メニューとして確立させ、地域の NPO が積極的に利用することによって、組織基盤強化を通じた NPO の信頼性向上につなげたい。



組織基盤強化ワークショップ

2013 年度の成果目標②
 NPO 等がネットワークを築き、共創型のコミュニティのモデルが複数生まれている。

◇ なぜこの事業に取り組んだのか

水戸市中心市街地の遊休施設を市民活動拠点として活用してほしいとの依頼を企業から受けたことから、その拠点をモデルとし、様々な人や組織による協調アクションを生み出す共創空間を広めたかったため。また新しい公共支援事業を通じて作成した『茨城県新しい公共推進指針』を活用し、行政と NPO の対話を進め、ネットワークによる NPO の政策提言力を高めようとの狙いがあった。

◇ 何をどのように変えようとしたのか

遊休施設に様々な人や組織が集い、協働が進むよう、出会う場づくりとそのコーディネーター人材の育成などに努めた。また指針の中で位置づけられた「新しい公共推進委員会」(仮) の設置を念頭に、地域円卓会議のさらなる普及や NPO 例会開催を通じて市民団体のネットワークを強化しようとした。

◇ 何をしたのか

多様な分野の人や組織が集い、未来志向で対話し共創の種を生み出す「フューチャーセンター」を 2 回開催した。またフューチャーセンター開催を OJT の機会として、NPO や行政、企業など様々な組織で人や組織をつなぐ立場にある方を対象とし、「共創空間コーディネーター養成講座」を開催した (NPO マナビヤの演習科目としても実施)。また茨城大学と連携し、学生が活動の担い手となって、地域円卓会議での協議から生まれたアイデアを実践することを目的とし、「グッジョブ・テーブル」(地域円卓会議) を開催した。阿見キャンパスではユニバーサル農業、水戸キャンパスでは生活困窮世帯生徒の学習支援について事例をもとに協議を行い、それぞれフューチャーセンターでアイデアを広げて実践に向けた協議を行った。



また地域の NPO が集い、組織運営課題などを対話の中から解決しようという例会を 9 月につくば市民大学と共催した。一方、鹿嶋市から開催の企画・運営を依頼された市民活動団体交流会では、地域の様々な市民活動団体が出会い、協働を模索する場とした。

さらに、水戸市「こみっとフェスティバル 2014」実行委員会に委員長として参画し、全 9 回にも及ぶ実行委員会や 3 回の分科会の企画・調整を担当した。また当日はステージ発表や展示を通じていばらき未来基金の広報活動を行った。

また、環境省「平成 25 年度持続可能な地域づくりを担う人材育成事業 ESD 環境プログラム」の茨城事務局となり、水戸市立新荘小学校 6 年生を対象に、全 16 時間にも及ぶ「持続可能な開発のための教育」(ESD) のモデル授業「なたねプロジェクト」実施や ESD 普及啓発活動、及びそのための企画・調整に取り組んだ。



過去、複数の自治体から協働研修の講師派遣を依頼されていたが、今年度は新たに常陸大宮市、坂東市、阿見町からも依頼を受け、協働の基本や意義、事例紹介を行い、ワークショップなどを開催した。また下妻市からは「協働のまちづくり市民会議」の企画・運營業務を受託し、中心市街地開発に伴い市民ができることについての意見交換、地域ポイント制度、地域活動人材の発掘・育成など協働に関するテーマを市民委員が協議する場とした。



茨城大学グッジョブ・テーブル

◇ どのような成果が得られたのか

フューチャーセンターでは、実際に多様な人や組織が会う場として機能した（第 1 回は 78 名が、第 2 回は 60 名が参加）。第 2 回では 5 つのテーマに分かれて協議を行い、そこから「グローバルフェスタ」の構想が生まれた（5 月 11 日開催）。またグローバルフェスタでは、フューチャーセンターでもテーマとなった精神障がい福祉に関する映画の上映や、家庭廃油を活用したキャンドルづくりも行われた。その他、フューチャーセンターで出会った人や組織同士が協働で事業を進めるよう模索している（水戸市双葉台でのプレーパークづくり、農業の 6 次産業化や遊休農地を活用したユニバーサル農業の実施など）。参加者からは「たくさんの人と話げできた」、「出逢いで未来の可能性をつくれる」、「前向きの話し合いって大事」といった感想が多く聞こえた。

茨城大学のグッジョブ・テーブルでは、各テーマが実践に向けて複数回協議を行い、他地域で進んでいる活動が茨城でも展開する素地を作ることができた。

つくばで行った NPO 例会では、具体的な組織課題について少人数でじっくり対話し、解決を模索する機会となり、団体同士のつながりが深まった。また鹿嶋市では、市民活動団体同士の交流会がこれまでほとんど行われていなかったため、今回の交流会を契機に、約 60 名の参加者が多くの出会いを得た。

こみっとフェスティバルでは、実行委員会や同行事開催を通じ、水戸市内の団体相互のネットワーク化に大きく貢献することができた。また、同行事で出会った組織同士が新たに活動を始めることにもつなげられた。イオンモール水戸内原で開催したことで多くの市民が参加し、様々な地域の団体を新たに知り、楽しく活動を学ぶ機会となった。

環境省 ESD 授業では、この授業で学んだ 6 年生が、学校で自発的に家庭廃油回収に取り組み、5 年生に活動を引き継いだ。またフューチャーセンターで大人に交じって積極的に協議を行い、そのアイデアに基づいて水戸市長になたねプロジェクトを地域に広めることへの協力依頼を行った。このように ESD が狙いとしている①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的・総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度を伸ばし、地域を変えるアクションにつなげることができた。

下妻市のまちづくり市民会議では、各委員が積極的に同会議に臨み、また下妻市職員も積極的に市民委員と交流しており、行政と市民の壁が低くなり、協働の意識が醸成されつつある。委員からも、具体的な会議の進め方やテーマについて積極的な提案が出ている。

◇ 今後どうしたいのか

フューチャーセンターを定期的で開催することで、共創型のコミュニティが生まれるようにしたい。またそれを仕掛けるコーディネーター育成にも継続的に取り組みたい。茨城大学のグッジョブ・テーブルについては、残された日立キャンパスでの開催と、阿見、水戸キャンパスでの協議のフォローアップを行い、実践を目指したい。また、着手できなかった地域円卓会議ガイドブック作成に取り組み、組織連携による協働の活性化に貢献したい。

NPO 例会は専門家を交えた会計・労務などの相談会、講座と同時開催し、定期的に各地域の団体が集う状況を作りたい。また ESD に関連した国の動きは今後も見込まれるので、子どもや当事者から地域社会を変える流れをつくりたい。



ESD 授業成果を地域に発信

2013 年度の成果目標③
 「茨城のために寄付したい」という県民（人および組織）が 30,000 人、寄付に参加している。

◇ なぜこの事業に取り組んだのか

茨城のために寄付をしたいと思う県民 3,000 人という目標は 2012 年度にある程度達成したが、茨城の未来を変えるムーブメントを起こすには、より多くの県民が主体的に寄付や NPO 活動に関わることが必要とわかったため、県民の約 1%にあたる 30,000 人を目標とした。

◇ 何をどのように変えようとしたのか

茨城県新しい公共支援事業で築いた仕組みや協力関係を活かし、他の部門との連携を図りながら、専属職員が不在となった影響を低減化させ、効率良く事業を進めることを念頭に置いた。

◇ 何をしたのか

いばらき未来基金の認知度がまだ低いため、様々な組織と連携した寄付募集を行った。茨城県納豆商工業協同組合と連携した「納豆の日」やひたちなか海浜鉄道で走らせた「納豆列車」、水戸まちなかフェスティバルでの「納豆食堂」と合わせた募金活動に取り組んだ。募金活動と併せて県内主要行事でのブース出展、新聞や機関誌、茨城放送、いばキラ TV 出演などで活動紹介した。また、寄付つき商品を拡充させ、パルシステム茨城による寄付つき干し芋の販売（604 個）、JA つくば市谷田部とも連携した規格外の原木しいたけの販売（790 個）、事業指定助成団体であるリヴォルヴ学校教育研究所が開発した寄付つき英単語カレンダーと英語練習帳の販売（それぞれ 222 冊と 129 冊）に取り組んだ。



水戸ご当地アイドル（仮）との募金活動

事業指定助成団体へのフォローアップになかなか取り組むことができなかつたが、懇親会や全体ミーティングで意見交換や進捗把握を行った。検討の結果、寄付実績が低調なため 2014 年 6 月まで寄付募集期間を延長することとした。また年度内の助成は行えなかつたが、これまで集まった寄付金を原資とし第 1 回テーマ助成の公募を行い、申請があつた 7 件を審査・調整し、7 月に交付式を開催予定である。

また、花王株式会社や同社社員によるハートポケット倶楽部と連携し、第 1 回冠助成として社員参加型の地域助成を行い、代行事務局として公募、審査の調整、助成金交付を行った。

寄付文化の担い手を創る活動として、つくば秀英高等学校の高校生と連携し募金活動を行った。2014 年度も同様の活動を予定している。その他、京都地域創造基金が主体となる全国のネットワーク組織の会合に出席するなど市民コミュニティ財団を取り巻く状況の情報収集・提供に取り組んだ。

◇ どのような成果が得られたのか

茨城県納豆商工業協同組合との連携が深まり、今後も継続的な募金活動が見込まれるようになった。パルシステム茨城との寄付つき商品も徐々に定着してきており、キャンペーン型ではない定期的な販売も視野に入るようになってきている。

テーマ助成は合計約 60 万円の助成以外にも、よりそい型で事務局と一緒に事業企画を作ることができ、組織運営に深く踏み込んだ助言も併せることで、実際の助成金額以上にインパクトを生む支援につなげることができた。初の冠助成事業では、4 団体に合計 50 万円を助成し、2014 年度に予定されている第 2 回につなぐ基盤づくりができた。

◇ 今後どうしたいのか

事務局体制が弱い現状を急激に改善することは難しいが、運営委員会を通じて体制改善のための協議を年間通じて行いながら、これまで築いてきた関係や基盤を維持しながら事業を進めたい。特に、寄付募集を市民参加によるチームで行える体制づくりに努めたい。テーマ助成、冠助成、事業指定助成団体には適宜きめ細かい支援やコンサルテーションを行い、助成インパクトを高める努力を高めたい。



花王・ハートポケット倶楽部地域助成贈呈式

2013 年度の成果目標④
 福島からの避難者と茨城県民の交流が広がり、共同での活動や助け合い活動が増えている。

◇ なぜこの事業に取り組んだのか

約 4,000 人もの福島からの避難者が、先の見えない避難生活を続けていますが、そのことを多くの人が知らない状況があります。仕事に就けない、借り上げ住宅は狭いが引っ越せない、学校で子どもが馴染めずにいるなど、一人一人の課題の解決を応援できるよう、県内の支援団体や、福島の方々が組織したグループをつなぐ活動として「ふうあいねっと」の事務局を運営しました。

◇ 何をどのように変えようとしたのか

仕事で来日した外国人の方と同じように、移動生活者の方は、横のつながり弱く、住んでいる自治体にニーズが届きにくいという問題があります。このような見えにくい問題を見えるようにし、福島の方々が住みやすい状況をつくるため、情報紙づくりや地域円卓会議を通じて、発信していくことに取り組みました。

◇ 何をしたのか

年 4 回発行した「ふうあいおたより」は、募集に応じてくれた福島の方の編集チームをつくり、「知りたい情報」、「伝えたいコト」を議論しながら紙面づくりを行いました。高校受検に関して調査を行い、福島県と茨城県の受検事情の違いなどを情報紙に掲載したほか、住宅取得を考える方向けに住宅事情に詳しい方を招いた懇談会を開催して、その概要も記事に掲載しました。



自助グループ支援では、大熊町の方が企画した「明日につながる船」も 2 年越しで取り組み、昨年末に北海道へのフェリーに乗船するかたちで実施することができました。さらに、おたよりの編集員が中心になって仲間と知り合える場づくりが進み、HIF (Happy Ibaraki Fukushima) というグループが生まれました。

◇ どのような成果が得られたのか

ふうあいおたよりは、イベント情報中心だった広報紙が、知りたいことが載っている、人をつなぐメディアに変わってきました。明日につながる船は、福島出身の小中学生が船で出会い、日頃話せないでいた想いを本音で話し合い、故郷について考える機会となり、その内容はテレビや新聞でも紹介され、多くの方々に子どものたちの状況を知ってもらうことができました。

◇ 今後どうしたいのか

ふうあいねっと事務局は茨城大学へ引き継ぎますが、浪江町の復興支援員の活動支援をすることになりましたので、支援員と協力して孤立を防ぐ活動に取り組んでいきます。生活困窮者支援に関しても半年間電話相談をしてきた経験を活かして、地域のセーフティネットづくりに取り組みます。



2013 年度の成果目標⑤

外国人児童生徒の教育保障への関心が高まり、学習支援ボランティアや教室が広がっている。

◇ なぜこの事業に取り組んだのか

3 年間の就学サポート事業で培ったものや教育現場とのつながりを活かし、外国人児童生徒の学習環境や支援の必要性を教育現場にアピールし、高校進学率を高めることは、地域の企業や社会貢献につながる重要なテーマと考えました。アフター・スクールを地域展開していくためには、学習支援ボランティアの方の確保と育成が必要となります。常総で 3 年間行ってきた学習支援を県域に広げるための発信源となることを目指しました。

◇ 何をどのように変えようとしたのか

県内の小中学校の約半数には外国籍の児童生徒がいますが、各学校で国際教室の担当教諭が孤立しがちで、日本語指導の経験もなく独自で生徒の指導を行うこともあり、教材などの共有や進路に関する情報を提供するため、先生や学校支援員が横につながる状況を目指しました。

◇ 何をしたのか

3 年間、就労や就学の支援をして直面した諸課題に関して、関係者と議論した円卓フォーラムの報告書をポルトガル語の翻訳も付けて出版しました。

またアフター・スクール、サマー・スクールを水海道、石下地区で、外国人児童生徒向けの高校進学ガイダンスを常総市、土浦市、神栖市で開催しました（通訳付き）。ブラジル人学校向けのキャリア・ガイダンスを常総市、つくば市で開催。また、進学ガイドブック、キャリア・ガイドブックは 5 言語（英語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、中国語）に翻訳し、作成しました。茨城の外国人児童生徒の学習環境向上プロジェクト会議を 2 回開催し、教育委員会や小中学校長、国際クラス担当教諭と情報交換を行いました。その議論を通じて、常総市に配置されている 7 人の外国人支援員の方を対象とした初めての研修会を 2 回開催することができました。また通訳がない学校に、登録した母語学習サポーターが出向く仕組みもつくりました。年度の後には教育の国際課対応を考える円卓フォーラムを筑波大学内で開催しました。



◇ どのような成果が得られたのか

プロジェクト会議で、県教育委員会に外国人児童生徒の多い学校現場の窮状が伝わり、県内では初めて、外国人生徒の高校進学に関する実態調査を行うことができました。議論を通じて、協力して教育環境を向上させていこうという機運を高めることができました。

◇ 今後どうしたいのか

外国人生徒の高校受検特例選抜の見直しに関する要望書を提出し、未来のグローバル人材育成のために可能性ある外国人生徒に高校受検のチャンスを与え、地域企業の協力も得て進路の選択肢を広げたい。



事業実績 (2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで)

以下、茨城 NPO センター・commons 定款第 5 条 (事業) を抜粋。

第 5 条

この法人は、第 3 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 民間非営利活動及び民間非営利組織に関する情報の収集及び提供
- (2) 民間非営利活動及び民間非営利組織に関する調査及び研究
- (3) 民間非営利活動及び民間非営利組織に関する支援事業
- (4) 寄付の推進及び仲介事業
- (5) 災害被災者支援に関する事業
- (6) 介護等の人材育成及び資格取得支援事業
- (7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項に掲げるもののほか、収益事業として次の事業を行う。

- (1) 前項に掲げる事業に関連する物品の斡旋及び販売
- (2) 前項に掲げる事業に関連する役務の提供

3 前項に掲げる事業は、第 1 項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は、第 1 項に掲げる事業に充てるものとする。

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
5-1	市民活動情報収集	新聞切抜隊による新聞記事スクラップ作業		茨城県労働福祉会館		不特定多数
5-1	県内 NPO 法人に関する情報提供	ボランティア活動を希望する市民に対し、県内の市民活動団体に関する情報提供	8 月 7 日 3 月 25 日	茨城県労働福祉会館	市民	2 名
5-1	県内 NPO 法人に関する情報提供	筑波大学の学生地域活動支援事業 TACT 説明会に出席し、県内 NPO 法人に関する情報提供	7 月 10 日 11 月 27 日 2 月 10 日 3 月 11 日	筑波大学	筑波大学学生	
5-1	県内 NPO 法人に関する情報提供	茨城大学地域総合研究所の研究例会や学生とのワークショップで、また学生インターンなどに対して情報提供	4 月 24 日、6 月 27 日、 7 月 3 日、8 月 8 日、 9 月 18 日、10 月 24 日、 11 月 1 日、1 月 23 日、 2 月 11 日	茨城大学地域総合研究所、茨城県労働福祉会館	茨城大学教授、大学生、市民	のべ 30 名
5-1	県内 NPO 法人に関する情報提供	茨城 NPO 情報誌『COMMONS』の発行、送付	7 月 12 月			不特定多数
5-1	県内 NPO 法人に関する情報提供	県内メディア連携 NPO 広報プロジェクト「市民社会をつくる」実施のため、いばキラ TV に出演するなど	7 月 11 日、8 月 23 日、 9 月 24 日、9 月 26 日、 9 月 30 日、10 月 7 日、 10 月 15 日、10 月 21 日、	茨城県庁	一般市民	不特定多数

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
		のコーディネート	10月28日、11月5日、 11月11日、11月18日、 11月25日、12月2日、 12月9日、12月16日、 12月24日、1月21日、 3月6日、3月25日			
5-3	講師派遣	東京ボランティア・市民活動センター主催の中間支援組織対象「支援力アップ塾」への講師派遣	10月4日 10月24日	東京ボランティア・市民活動センター	中間支援組織	
5-1	講師派遣	茨城県水戸生涯学習センター主催ネットワークフォーラム第2分科会「ボランティアの未来 ～コミュニティビジネスを学ぶ～」にパネリストとして参加	1月25日	水戸生涯学習センター	コミュニティビジネスに関心がある市民、団体	
5-1	講師派遣		3月11日	茨城カウンセリングセンター		
5-1	講師派遣	茨城新聞常総支局開設を記念する会合に出席	3月12日	常総市		
5-1	水戸市こみっとフェスティバル	同行事実行委員会に委員長として企画打ち合わせや開催を支援	5月9日、6月21日、 7月18日、8月2日、 8月23日、8月29日、 9月13日、9月26日、 10月22日、10月31日、 11月1日、11月28日、 12月4日、12月19日、 1月16日、1月27日、 2月3日、2月15日、 3月10日	茨城県労働福祉会館、水戸市役所、虹の会事務所、水戸市国際交流センター、FMばるるん、水戸内原イオン	水戸市、水戸市内の市民活動団体	
5-1	水戸市「市民活動力アップ！」研修会	事業計画作成のコツを学ぶ同講座に講師派遣、およびその企画打ち合わせ	2月28日 3月19日	茨城県労働福祉会館、水戸市国際交流センター	同講座に関心がある市民活動団体	約 10 名
5-1	土浦市協働のまちづくりワークショップ	土浦市内の地域課題を解決するため、市職員とも話し合いながら市民がともにできることを考え、実践するワークショップを実施	7月20日、8月10日、 8月31日、9月14日、 9月28日、10月12日、 10月26日、11月9日、 11月23日、12月7日、 3月28日	土浦市役所	土浦市民及び土浦市役所	のべ 128 名
5-1	土浦市みんな協働のまちづくりシンポジウム	「地域が育む子どもたち」をテーマに協働のシンポジウムを開催、及びそのための企画・準備など	9月19日、12月6日、 1月8日、1月17日、 1月24日、1月25日	土浦市役所、土浦市民会館	土浦市民（主に遅延組織）	約 400 名
5-1	土浦市 NPO の運営力向上講座	同講座に講師派遣	2月13日 2月20日 2月27日 3月6日	土浦市	NPO 設立・運営に関心がある市民、団体	のべ 60 名
5-1	下妻市協働のまちづくり市民会議	砂沼周辺地域開発、地域ポイント制度、地域活動人材育成など協働のまちづくりに関するテーマを市民委員が協議する同会議の企画、	9月26日、10月9日、 10月22日、11月13日、 11月20日、12月11日、 12月18日、1月20日、 1月22日、2月13日、	下妻市役所、茨城県労働福祉会館	下妻市、下妻市民	のべ 約 120 名

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
		コーディネート	2月19日、3月5日			
5-1	取手市市民活動団体広報力アップ講座	同講座に講師派遣	2月25日	取手市藤代庁舎	広報力向上に関心がある市民活動団体	約 20 名
5-1	取手市シンポジウム「ボランティア活動による楽しいまちづくり」	同シンポジウムの開催コーディネート、企画打ち合わせなど	1月28日 2月17日 3月9日	取手市福祉交流センター 多目的ホール	取手市民	
5-1	取手市職員対象協働研修	協働の基礎、コツや事例紹介、協働に関するワークショップなどの開催やそのための企画打ち合わせ	12月18日 1月28日 2月13日	茨城県労働福祉会館、取手市役所、取手市福祉交流センター	取手市役所職員	約 40 名
5-1	石岡市職員対象協働研修	協働の基礎、コツや事例紹介、協働に関するワークショップなどの開催やそのための企画打ち合わせ	9月3日 10月1日 10月2日	茨城県労働福祉会館、石岡市役所	石岡市役所職員	約 120 名
5-1	坂東市職員対象協働研修	協働の基礎、コツや事例紹介、協働に関するワークショップなどの開催やそのための企画打ち合わせ	4月23日 5月29日 8月19日 9月3日 12月9日 1月29日	坂東市役所、茨城県労働福祉会館、グローバルセンター、坂東市岩井公民館	坂東市役所職員	約 40 名
5-1	常陸大宮市職員対象協働研修	協働の基礎、コツや事例紹介などの講座開催やそのための企画打ち合わせ	5月21日、6月4日、 7月3日、8月8日、 11月14日	茨城県労働福祉会館、常陸大宮市役所	常陸大宮市役所職員	約 40 名
5-1	阿見町職員対象協働研修	協働の意義などについて講演	3月20日	阿見町	阿見町職員	約 40 名
5-1	行方市地域の担い手養成講座	行方市内の地域課題を解決するため、市民がともにできることを協議するワークショップを実施	6月27日 8月1日 8月8日	行方市麻生保健センター、天王崎観光交流センター「コテラス」	行方市、行方市民	約 15 名
5-1	鹿嶋市市民活動団体交流会	同交流会の企画や当日のファシリテーション	3月16日	鹿嶋市まちづくり市民センター	他団体と交流を希望する市民活動団体、行政職員	約 60 名
5-1	県南地域 NPO 交流会	市民活動団体同士が対話し、組織運営の課題解決を図る交流会を開催	9月11日	つくば市民大学	県南の市民活動団体	約 10 名
5-1	茨城大学「グッジョブ・テーブル」(地域円卓会議)	グッジョブ・テーブルの企画、運営支援	4月19日、5月29日、 11月6日、1月8日、 1月22日、1月28日、 2月20日、3月14日、 3月27日	茨城県労働福祉会館、茨城大学阿見キャンパス、トモスミと、双葉台市民センター	茨城大学学生など	
5-1	地域円卓会議の普及	地域円卓会議の協賛(移動困難者の外出・買い物支援)より生まれたアイデアであるタウン・モビリティを	7月5日、8月8日、 9月9日、9月28日、 10月3日、10月15日、 10月23日、10月27日、	水戸市中心市街地、それいゆ	移動困難者	

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
		昨年同様「水戸まちなかフェスティバル」にて実施。またそのための企画打ち合わせ	12 月 24 日			
5-1	地域円卓会議の普及	体験型地域円卓会議（新しい公共フォーラム）の協議（地域の農業支援と新たな仕事づくり）より生まれた、6 次産業化発展のためのアンテナショップづくり事業企画打ち合わせに参加	4 月 1 日	くらぶコア事務所	生協や農家など当該協議参加者	約 10 名
5-1	地域円卓会議の普及	西東京市円卓会議にファンリレーターとして講師派遣	3 月 10 日	西東京市		
5-1	地域円卓会議の普及	社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（NN ネット）が開催する総会や SR フォーラムなどに参画し、情報収集	5 月 10 日	早稲田奉仕園 AVACO ビル		
5-1	フューチャーセンター ∞ 茨城	多様な分野の人や組織が集い、未来志向で対話し協働のアクションを生み出すフューチャーセンターを 2 回開催、及びその企画、準備など	11 月 17 日、11 月 27 日、12 月 13 日、12 月 15 日、1 月 20 日、2 月 3 日、2 月 10 日、2 月 28 日、3 月 8 日、3 月 12 日、3 月 22 日	トモスमित	他の組織との連携を希望する組織、人	のべ 148 名
5-1	共創空間コーディネーター養成講座	遊休施設を市民活動に活用するための企画打ち合わせと、人材育成	9 月 3 日、10 月 8 日、10 月 14 日、11 月 5 日、11 月 18 日、12 月 3 日、12 月 17 日、1 月 15 日	トモスमित、茨城県労働福祉会館、双葉台市民センター	遊休施設所有者、コーディネーター	のべ 70 名
5-1	持続可能な開発のための教育（ESD）の推進	環境省「平成 25 年度持続可能な地域づくりを担う人材育成事業 ESD 環境プログラム」の茨城事務局となり、水戸市立新荘小学校で ESD モデル授業実施や ESD 普及啓発活動、及びそのための企画やコーディネート	8 月 28 日、9 月 25 日、9 月 27 日、10 月 16 日、10 月 24 日、10 月 28 日、10 月 31 日、11 月 13 日、11 月 17 日、11 月 26 日、11 月 27 日、12 月 4 日、12 月 5 日、12 月 10 日、12 月 18 日、12 月 19 日、1 月 8 日、1 月 13 日、1 月 16 日、1 月 31 日、3 月 25 日	つくば市民大学、茨城県労働福祉会館、それいゆ、新荘小学校、常磐大学、トモスमितなど	新荘小学校児童、一般市民	不特定多数
5-1	関東 ESD まなびあいフォーラム	同研修会にて事例発表	2 月 8 日	東京ウィメンズプラザ	ESD に関心がある市民、団体	約 30 名
5-1	SAVE JAPAN プロジェクト	希少生物保護など環境保全活動に市民の関心を高めるための同事業及び関連イベント実施、また企画打ち合わせ	5 月 29 日、6 月 28 日、7 月 15 日、7 月 26 日、7 月 29 日、8 月 9 日、9 月 4 日、9 月 27 日、10 月 1 日、11 月 6 日、12 月 27 日、1 月 10 日、1 月 24 日、1 月 26 日、1 月 30 日、2 月 6 日、2 月 22 日、2 月 27 日、3 月 7 日	水戸、ひたちなか、筑西、牛久、日立、東京、大阪	一般市民	のべ約 200 名
5-1	企業の社会貢献活動推進	花王株式会社での市民活動に関する講演会の講師派遣	5 月 24 日	花王本社	花王社員	

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
5-1	企業と NPO の協働推進	JT の NPO 助成金交付式への参加	6 月 6 日	JT 水戸支店	JT、里山を守る会	
5-1	フードバンク茨城運営支援	役員会や連絡協議会、連携推進会議などへの参画を通じた組織運営支援など	4 月 28 日、7 月 6 日、7 月 13 日、7 月 24 日、8 月 6 日、9 月 18 日、10 月 19 日、11 月 16 日、11 月 19 日、12 月 21 日、1 月 18 日、2 月 18 日、2 月 22 日、3 月 15 日、3 月 28 日	茨城県労働福祉会館、パルシステム茨城つくば館、牛久ボランテア・市民活動センター、いばらきコープ本部・牛久店、フードバンク茨城事務所、つくば市民大学		
5-1	つくば市民大学運営支援	運営委員会、幹事会、総会、5 周年記念誌作成実行委員会などに出席	4 月 25 日、6 月 9 日、7 月 25 日、8 月 6 日、10 月 3 日、11 月 28 日、1 月 30 日、3 月 27 日、3 月 29 日	つくば市民大学		
5-1	様々な社会的困難を抱える個人対象電話相談	電話相談事業運営及びそのための企画打ち合わせ、関連会合参加、準備作業、相談者対象研修開催など	6 月 5 日、6 月 7 日、6 月 8 日、6 月 23 日、6 月 24 日、6 月 30 日、7 月 5 日、7 月 9 日、7 月 30 日、8 月 21 日、8 月 23 日、8 月 29 日、8 月 30 日、9 月 3 日、9 月 6 日、9 月 13 日、9 月 17 日、9 月 22 日、9 月 24 日、9 月 25 日、10 月 1 日、10 月 2 日、10 月 4 日、10 月 8 日、10 月 9 日、10 月 11 日、10 月 12 日、10 月 17 日、10 月 19 日、10 月 20 日、10 月 23 日、11 月 2 日、11 月 3 日、11 月 10 日、11 月 17 日、11 月 24 日、12 月 1 日、12 月 6 日、12 月 8 日、12 月 15 日、12 月 22 日、12 月 29 日、1 月 5 日、1 月 9 日、1 月 12 日、1 月 13 日、1 月 17 日、1 月 19 日、1 月 23 日、1 月 26 日、2 月 2 日、2 月 9 日、2 月 13 日、2 月 14 日、2 月 16 日、2 月 19 日、2 月 23 日、3 月 2 日、3 月 7 日、3 月 9 日、3 月 17 日、3 月 18 日など	千葉、東京、栃木、それいゆ、茨城県労働福祉会館	様々な社会的困難を抱える個人	
5-1	「成年後見制度を考える」シンポジウム	NPO 法人 NPO 消費者相談室主催の同行事開催の運営協力や準備作業	1 月 24 日 2 月 5 日	トモスミと	一般市民	66 名

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
5-1	中間的就労に関する情報収集・提供	ユニバーサル就労に関する茨城県経営者協会主催経営研究会などにて情報収集・提供	2月12日 2月16日	茨城県産業会館、つくば市民大学		
5-2	NPO 法人会計基準準拠状況実態調査	会計専門家や NPO マナビヤのメンバーとともに、決算書類を元に県内 NPO 法人の会計基準準拠率を調査	11月18日 1月10日	交流サルーン いばらき	県内の NPO 法人	
5-2	協働推進データベース	茨城版 NPO ヒロバの運営				不特定多数
5-2	協働に関する情報収集・発信	2014 年度 NPO 関連予算ヒアリングでの情報収集・発信	2月12日	東京		不特定多数
5-2	いばらき市民エネルギー	再生可能エネルギーを推進する一般社団法人設立準備及び運営支援	4月12日、5月24日、 5月30日、6月17日、 6月22日、7月5日、 7月22日、10月25日、 11月15日、12月16日	茨城県労働福祉会館		
5-2	ESD コーディネーター全国会議	同研修会への参加	12月2日 3月4日	東京		
5-2	中間支援組織交流会	環境パートナーシップオフィス主催の同行事に参加	2月8日	東京ウィメンズプラザ		
5-2	全国民間ボランティア市民活動推進者企画戦略会議(民ボラ)	第31回参加、および第32回実行委員会への出席	6月14日、6月15日、 9月5日、9月6日	CANVAS 谷町、静岡		
5-2	NPO 支援センター初任者研修会	日本 NPO センター主催同研修会への参加	6月28日、6月29日	東京		
5-2	NPO 支援センター中堅者研修会	日本 NPO センター主催同研修会への参加	10月10日～11日	エル・おおさか、CANVAS 谷町		
5-3	NPO 法人や市民活動団体設立相談対応	左記のとおり	5月2日、5月8日、 5月27日、5月31日、 6月1日、8月6日、 8月7日、9月4日、 9月5日、9月17日、 9月19日、10月4日、 10月30日、11月15日、 11月22日、12月11日、 3月31日	茨城県労働福祉会館	設立を希望する市民	15 件
5-3	NPO 法人運営・ガバナンス支援	組織運営やガバナンスに課題がある NPO 法人の支援	5月14日、5月23日、 5月26日、5月28日、 6月27日、7月11日、 7月19日、7月29日、 8月19日、8月21日、 9月11日、9月27日、 10月7日、10月9日、 10月26日、11月1日、 11月12日、12月2日、 12月18日、1月21日、	各団体事務所など	組織運営やガバナンスに課題がある NPO 法人	15 団体

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
			2月12日、2月14日、 2月26日、3月17日、 3月26日			
5-3	NPO 法人運営支援	助成金申請相談対応	7月17日、7月19日、 7月21日、7月23日、 7月24日、10月7日	茨城県労働福祉会館、助成金申請希望団体の事務所	助成金申請準備中の市民活動団体	7団体
5-3	助成金申請のコツを学ぶセミナー	生活協同組合 パルシステム茨城「くらし活動助成基金」申請時期と連動させた、同セミナーの開催	7月8日	それいゆ	助成金申請に関心がある市民活動団体	15名
5-3	実践！市民団体のファンディング講座	ダイレクトメール、募金箱、企業へのアプローチ、イベントなど様々な手法を使った寄付募集のコツを学ぶ講座開催	9月11日 9月25日 10月9日 10月23日	つくば市民大学	寄付募集に関心のある市民活動団体	のべ約25団体
5-3	会計支援茨城	NPO 支援に関心のある税理士や公認会計士の勉強会など開催、またその企画打ち合わせ	6月18日 7月19日 9月12日 11月18日	茨城県労働福祉会館、取手市	NPO 支援に関心のある税理士や公認会計士	
5-3	NPO 法人会計基準協議会支援	同協議会に事務局長として横田を派遣	5月8日、6月14日、 6月19日、7月10日、 9月30日、11月1日、 11月29日、1月29日、 2月18日	東京	全国のNPO法人	
5-3	NPO 対象労務講座	同講座開催企画打ち合わせなど	10月1日 12月18日 2月18日	東京		
5-3	NPO 組織基盤強化ワークショップ	組織基盤強化に関するワークショップを行いながら、Panasonic NPO サポートファンドの助成事業を紹介	6月24日	つくば市民大学	組織基盤強化に関心がある市民活動団体など	約20名
5-3	東北のNPOの組織基盤強化支援	日本NPOセンターが行うNPO育成・強化プロジェクト「NPOを磨く15の力」に講師として派遣	5月15日 5月16日	福島県	東北のNPO	
5-3	NPO マナビヤ	次世代のNPO職員育成のため、学びと実践の機会を提供	4月16日、5月17日、 8月20日、9月9日、 10月24日、11月18日、 1月20日、2月18日、 3月2日～4日	茨城県労働福祉会館、つくば市民大学、トモスミと、徳島県神山町、上勝町	次世代のNPO職員	のべ約60名
5-3	市民活動基盤整備のための委員派遣	内閣府「共助社会づくり懇談会」に委員として出席	5月27日、7月17日、 8月19日、8月29日、 9月24日、10月9日、 11月15日	内閣府	全国のNPO法人	
5-3	市民活動基盤整備のための委員派遣	茨城県「新しい公共支援事業運営委員会」に委員として出席。また「新しい公共を推進するための地域円卓会議」にパネラーとして出席	7月17日 8月8日 8月20日	茨城県庁、茨城県薬剤師会館	県内自治体、市民活動団体など	
5-3	市民活動基盤整備のための委員派遣	茨城県生涯学習推進事業連絡会議などに参加し、生涯学習施策に関する情報や意見を提供・収集	5月1日、7月19日、 9月12日、12月4日、 2月4日	茨城県庁、鹿行生涯学習センター	県内生涯学習関連施設職員	

定款 条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の 実施場所	受益対象 者の範囲	人数
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	霞ヶ浦環境科学センター委 託事業選考会にて審査	4月25日	霞ヶ浦環境科 学センター		
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	茨城県社会福祉協議会の評 議会や新地域福祉活動推進 プラン策定委員会、茨城県 ボランティアセンター運営 委員会に委員として参画	5月30日 7月19日 7月24日 9月9日	茨城県総合福 祉会館	茨城県社会 福祉協議会	
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	水戸市市民協働提案制度 「わくわくプロジェクト」 で水戸市協働推進委員とし て審査や企画打ち合わせ	5月16日、5月30日、 12月25日、2月19日、 2月26日	茨城県労働福 祉会館、水戸市 国際交流セン ター	水戸市や水 戸市内の市 民活動団体	
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	水戸市市民懇話会にて委員 として協働施策に関して提 言	8月9日 10月17日	水戸市福祉ボ ランティア会 館、水戸市役所	水戸市や水 戸市内の市 民活動団体	
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	日本 NPO センター理事会 に出席	3月26日	東京		
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	「タケダ・いのちとくらし 再生プログラム」助成プロ グラムの助成審査参画	5月31日 2月20日	東京		
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	常陽銀行公益信託「エコー いばらき」環境保全基金助 成金の選考や企画打ち合わ せ	5月14日 1月24日	常陽銀行	環境団体	
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	生活協同組合 パルシステ ム茨城「くらし活動助成基 金」の助成金審査やそのた めの企画打ち合わせ、助成 対象団体への訪問など	9月12日 11月6日 2月19日	茨城県労働福 祉会館、つくば	茨城県内の 市民活動団 体	
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	設立されたばかりのパルシ ステム茨城のセカンドリー グ事業の運営協議会参加や 事業企画相談対応など	4月9日、4月11日、 4月26日、5月22日、 6月18日、11月14日、 1月21日、3月6日、 3月29日	茨城県労働福 祉会館、トモス みと	パルシステ ム茨城	
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	セカンドリーグ茨城実践起 業塾での審査参画	1月11日	茨城県労働福 祉会館	社会的起業 準備中の市 民	6名
5-3	市民活動基 盤整備のた めの委員派 遣	いばらき ESD 実践研究会 に参加及びそのためのコー ディネート	9月11日 10月20日 11月17日	JICA 筑波、常 磐大学		
5-3	全国の市民 活動支援組 織との連携	CEO 会議への参加	5月9日 11月28日 11月29日	東京		
5-3	全国の市民 活動支援組 織との連携	IIHOE [人と組織と地球の ための国際研究所]が中心 となった中間支援組織支援 企画の打ち合わせや研修参 加	8月1日 8月30日 11月5日 12月22日	日本財団、茨城 県労働福祉会 館		

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
5-3	セクター間連携のための委員派遣	水戸商工会議所の中心市街地活性化協議会の福利交通部会に委員として出席	10月2日	水戸商工会議所		
5-4	いばらき未来基金への寄付募集	企業や生協、市民などへの寄付募集活動実施。県内の納豆組合と連携した「納豆の日」や「納豆列車」、「納豆食堂」などの行事での募金活動やその企画打ち合わせなど	6月20日、6月26日、7月6日、7月31日、8月30日、9月5日、9月13日、10月7日、10月13日、10月16日、10月26日、11月2日、12月7日、1月10日、3月26日、3月30日	水戸市内、茨城県労働福祉会館、水戸駅、ひたちなか海浜鉄道、水戸市中心市街地、つくば市民大学、水戸市総合運動公園など	企業や生協、市民など	不特定多数
5-4	いばらき未来基金事業指定助成	事業指定助成団体の交流の機会を提供し、寄付募集方法について意見交換するなど支援	8月7日 8月27日 1月16日	NPO 法人華の幹、それいゆ	事業指定助成団体	約 10 名
5-4	いばらき未来基金冠助成事業	花王・ハートポケット倶楽部地域助成の茨城ブロックの事務局代行に伴う作業	7月25日、8月1日	つくば市民大学、つくば市市民活動センター	助成対象となる市民活動団体	
5-4	いばらき未来基金テーマ助成	同助成事業のコーディネーター（公募、申請希望団体との相談対応、審査準備、各団体との連絡調整など）	12月18日 1月7日 1月29日 3月12日	茨城県労働福祉会館、助成希望団体事務所	助成申請希望団体	12 団体
5-4	いばらき未来基金運営委員会	同委員会開催及び企画打ち合わせ	5月23日、5月28日、5月31日、6月4日、6月6日、6月7日、6月10日、7月23日、8月2日、10月28日、11月26日、2月25日、3月20日	つくば市民大学、茨城県労働福祉会館、ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸		
5-4	他地域の市民コミュニティ財団の情報収集	京都地域創造基金が主体となるネットワーク組織の会合に出席するなど情報提供・収集	10月17日、10月29日、10月30日、1月14日、1月15日、2月10日、2月26日、2月27日	京都、岡山、東京、福島		
5-5	福島県からの避難者への情報発信	情報誌「ふうあいおたより」の作成、配布作業、およびそのコーディネーター	7月30日、7月31日、9月6日、10月4日、10月15日、10月16日、10月25日、10月28日、10月29日～31日、11月19日、12月3日、12月9日、12月17日、12月23日、12月25日、7月7日、1月10日、1月13日、1月14日、1月15日、1月30日、2月24日、3月5日、3月10日、3月13日	それいゆ、茨城県労働福祉会館、県北生涯学習センター	福島県からの避難者	不特定多数
5-5	福島県からの避難者の生活・自立支援	左記のための相談対応	5月15日 7月11日 11月20日		福島県からの避難者	
5-5	明日へつなぐ船	福島県から避難している家庭の児童・生徒がフェリー上で交流し、福島の現状と	5月28日、6月16日、6月22日、7月8日、7月29日、8月12日、	茨城県労働福祉会館	福島県から避難している家庭の児	

定款 条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の 実施場所	受益対象 者の範囲	人数
		未来を話し合う行事を開 催、およびそのための企画 打ち合わせや準備	10月17日、10月28日、 11月10日、11月15日、 11月20日、12月2日、 12月6日、12月12日、 12月16日、12月17日、 12月18日、12月20日、 12月21日、12月25日 ～29日		童・生徒	
5-5	福島からの 避難者優待 アイス・スケ ートショー 開催支援	避難者への開催告知協力 や、当日写真撮影した記念 アルバム作成・配布、その ための企画打ち合わせなど	7月5日 9月21日 9月22日 9月24日 9月28日	笠松運動公園	福島からの 避難者	
5-5	「住まい探 し」に関する 公開座談 会・住宅説明 会		2月16日	双葉台ショッ ピングセンタ ー	福島県から 避難してい る方	
5-5	ふうあい語 り場～“こ れまで”と “これから” を共有しよ う	同行事の開催	3月16日	トモスミと	福島県から 避難してい る方や支援 者など	
5-5	ふうあいね っと運営委 員会	委員会開催を通じ、各加盟 団体の情報共有と活動の検 討など	4月11日、6月13日、 8月9日、10月31日、 1月21日、1月24日、 2月25日	それいゆ、交流 サルーンいば らき	加盟団体	のべ 約 100 名
5-5	災害救援物 資整理・配布	物資保管倉庫作業及び配布	6月4日、6月21日、 8月6日、8月20日、 8月28日	パルシステム 茨城つくば館	災害被災者 及び避難者	
5-5	浪江のここ ろ通信	福島県浪江市が発行する広 報誌に掲載するため、広域 避難者へインタビューやそ のコーディネート	5月10日 1月29日		浪江市民	
5-5	避難者支援 活動に関す る情報提供	県庁インターンや報道機関 記者などへの情報提供	8月27日 1月31日 2月25日	茨城県労働福 社会館	県庁インタ ーン、記者	
5-5	福島支援活 動への啓発	福島支援を行っている音楽 家コンサートの開催協力	6月22日 6月30日	守谷市国際交 流研修センタ ー	茨城県民	約 80 名
5-5	全国の福島 支援活動の 情報収集	東日本大震災支援全国ネッ トワーク主催「広域避難者 支援ミーティング・全国版」 などへの参加	7月24日 8月24日	東京、いわき		
5-5	東北被災地 支援活動の 支援	生協の東北被災地支援活動 への助言	3月20日	茨城県労働福 社会館	生協役員	
5-6	在住外国 人生徒のキ ャリア形成 支援	将来のキャリア形成のイメ ージを持つよう、建築事務 所、スポーツクラブ、動物 病院、デザイン専門学校な どへの訪問をコーディネート	10月5日	水戸市内の建 築事務所、ス ポーツクラブ、動 物病院、デザ イン専門学校	外国人生徒	5名
5-6	在住外国 人	ブラジル人学校向けに資格	2月14日、2月28日	常総、つくば	ブラジル人	約 60

定款条項	事業名	具体的な事業内容	当該事業の実施日	当該事業の実施場所	受益対象者の範囲	人数
	のキャリアガイダンス	取得や専門学校などを説明			学校生徒	名
5-6	在住外国人生徒対象高校進学ガイダンス	同行事の開催	10月6日、11月16日、12月8日	グローバルセンター、土浦市、神栖市	在住外国人生徒、保護者他	約 60 名
5-6	アフタースクール、サマースクール	外国人児童生徒の小・中学生へ宿題や教科指導	5月～3月各40回(7、8月計14回)	グローバルセンター、石下地区	在住外国人児童・生徒	約 30 名
5-6	プロジェクト会議	地域の学校、教育委員会、大学行政、外国人コミュニティと連携して学習支援の仕組みの体制づくり	7月24日、12月16日	常総市石下総合福祉センター	外国人指導担当教諭、教育委員会、他	約 30 名
5-6	支援員研修	業務上の知識を理解し役割の確認や他校の支援員と業務内容の情報交換	9月10日、1月17日	常総市石下総合福祉センター	常総市外国人支援員	約 12 名
5-6	高校進学ガイドブック、キャリアガイドブック作成	出版物作成、高校受験の仕組みや制度や専門学校、大学や資格取得に必要な内容を5カ国語に翻訳			外国人児童・生徒及びブラジル人学校生徒	
5-6	教育の国際化対応を考える円卓フォーラム	【基調講演】 「外国人児童生徒の学習環境を整える上での行政、学校、地域の役割」 宇都宮大学国際学部長、HANDSプロジェクト代表 田巻 松雄 氏 【円卓討議】討議メンバー HANDS プロジェクト代表、茨城県教育委員会、茨城県教育研修センター、茨城県生活環境部国際課、常総市教育委員会、公立中学校長、県立高校、国際教室担当教師、母国語での通訳担当者、学習支援ボランティア、筑波大学日本語教育研究者、茨城 NPO センター・コモンズ	3月23日	筑波大学	教育関係者など	約 30 名
5-6	在住外国人当事者組織運営支援	コモンズが取り組んできた在住外国人対象の介護資格取得支援事業を引き継いだ当事者組織の NPO 法人コムニダージを運営支援（総会などに出席）	6月23日	グローバルセンター	NPO 法人コムニダージ	
5-7	総会	同会議の開催	5月25日	茨城県総合福祉会館		約 40 名
5-7	理事会	同会議の開催	5月11日、9月1日、11月3日、1月11日、3月9日	つくば市民大学、それいゆ、トモスミと、茨城県労働福祉会館会館		

※ その他の事業は実施しなかった。

会務に関する報告

種類	回	日時	場所	出席者数	議決事項
総会		5月25日(日) 午後1時半～3時	茨城県総合福祉会館 3階 多目的ホール	115名(出席者25名、委任状提出者68名、書面表決者22名)	<ol style="list-style-type: none"> 2012年度事業報告の承認を求める件 2012年度活動決算の承認を求める件 2013年度事業計画(案)の承認を求める件 2013年度活動予算(案)の承認を求める件 役員を選任並びに承認を求める件
理事会	第1回	5月11日(土) 午前10時～午後2時	つくば市民大学	9名(出席者9名、委任状提出者0名)	【報告事項】 1. 前回理事会以降の動きの報告 【協議・決議事項】 1. 2012年度事業報告案についての協議及び承認 2. 2012年度活動決算案についての協議及び承認 3. 2013年度事業計画案についての協議及び承認 4. 2013年度活動予算案についての協議及び承認 5. 役員改選案についての協議及び承認
	第2回	9月1日(日) 午後3時～6時10分	つくば市民大学	11名(出席者11名、委任状提出者0名)	【報告事項】 1. 総会後の組織に関する状況共有 - 7月1日からの役員交代(役員紹介) - メール配信に伴う情報漏洩事故とその後の事務局での業務改善対応 2. 総会後の事業の進捗状況及び事業の追加・変更 3. NPO業界の動き 【審議事項】 1. 事業及び予算の追加・変更の承認 2. 代表理事、副代表理事、常務理事の選定
	第3回	11月3日(日) 午後2時～5時20分	それいゆ	9名(出席者9名、委任状提出者0名)	【審議事項】 1. 就業規則と役員報酬規程の決定 【協議事項】 1. 予算第二次補正と資金繰りの対応策検討 2. コモンズ15周年に伴う寄付募集の方向性検討 【報告事項】 1. 電話相談事業設立状況の共有 2. 大工町での共創空間プロジェクトの進捗状況共有
	第4回	1月11日(土) 午後3時～5時45分	トモスミと業務ビル 4階会議室	10名(出席者9名、委任状提出者1名)	【報告事項】 1. 事業進捗状況 2. 今後の事業に関連する施策の動向 3. 資金繰りの状況 【協議事項】 1. 今後の拠点、事務局体制の変更 2. 今後の事業展開 【審議事項】 1. 資金繰りのための借入
	第5回	3月9日(土) 午前10時～午後1時	茨城県労働福祉会館 5階 第3会議室	8名(出席者7名、委任状提出者1名)	【報告事項】 1. 各事業の進捗状況報告 2. 資金繰りの状況報告 【協議事項】 1. 次年度事業計画・予算の素案検討及び承認 2. 全国市民コミュニティ財団協会への参画検討及び承認 3. いばらき市民エネルギーとの契約検討及び承認 4. 福島避難者支援に関する事業への関わり検討及び承認

会員数内訳

	2011年度			2012年度			2013年度			2014年度					
	個人	団体	合計	個人	団体	合計	前年比	個人	団体	合計	前年比	個人	団体	合計	前年比
正会員	100	76	176	91	67	158	- 18	97	78	175	+ 17	109	85	194	+ 19
賛助会員	13	11	24	14	10	24	0	15	9	24	0	15	9	24	0
購読会員	12	3	15	9	3	12	- 3	8	2	10	- 2	6	1	7	- 3
合計	125	90	215	114	80	194	- 21	120	89	209	+ 15	130	95	225	+ 16

※ 上記人数は全て総会時点

ボランティアとしてご協力いただいた皆様 (順不同・敬称略)

青木 高志
有賀 絵理
飯田 圭介
江崎 礼子
方喰 英幸
小鷹 美代子

佐々木 俊明
清水 悦子
徳田 太郎
萩谷 慎一
松本 博充
水戸特別支援学校の皆様

大好き いばらき県民会議の皆様
水戸市ネットワークワーカ―連絡協議会の
皆様
パルシステム茨城 生活協同組合の
皆様

寄付者名簿 (順不同・敬称略)

青木 礼子
浅野 健一
浅羽 雄介
飯島 邦子
家村 啓三
池田 隆年
石川あや
石塚 猛
井田 米子
板持 周治
市毛 啓子
市毛 純一
岩淵 幸男
楢崎 ひろ子
江崎 玲子
大久保 隆明
大島 一晃
大須 智栄
大野 覚
小笠原 明子

岡野 洋子
尾上 昌毅
小川 泰史
柏本 和江
金沢 直子
木村 裕子
日下部 英紀
久保田 一夫
栗又 幸江
小松崎 馨
小松崎 光正
佐々木 俊明
塩原 慶子
実吉 威
篠原 義典
篠田 栄治
小藤 輝正
真保 すみい
杉村 郁雄
鈴木 和隆

鈴木 まり子
鈴木 道生
田頭 篤
田中 玲子
土崎 雄祐
中島 晃士郎
中村 栄三
西形 真紀子
萩谷 慎一
柱山 歩
蛭田 智之
深谷 豊
福士 敏夫
本多 沙耶佳
松浦 幹司
松永 幹雄
松村 直道
松本 治郎
丸山 幸治
村上 節

米田 佐知子
和田 正人
URAYAMA ERI
コモンズ役員有志

花王 株式会社
ヤマダイ 株式会社
J-SA 茨城南支部
笠間ソフトメン橋本屋
ソノリテ 株式会社
茨城県生活協同組合連合会
いばらきコープ 生活協同
組合
パルシステム茨城 生活協
同組合
認定 NPO 法人 市民活動
センター神戸
NPO 法人 ベルサポート
NPO 法人 ぼこりっと

いばらき未来基金にご寄付いただいた皆様

秋元 久典
安久 正倫
石田 恵子
市野沢 伊司
宇梶 孝
江崎 礼子
小田 恒一
海後 竜生
賀久 明美

方喰 英幸
北澤 宏一
久保 利加子
斎藤 義則
下村 正樹
高桑 幸子
高松 志津夫
丹治 真弓
帯刀 治

谷島 弘恵
徳田 太郎
根本 真嗣
野村 隆行
萩谷 慎一
飛弾 真希子
藤田 あずさ
横田 能洋
吉川 佳代子

毎日新聞社員有志 平成 25 年度土浦市みんなで協働の まちづくりシンポジウム参加者有志 コモンズ理事会有志 いばらき未来基金運営委員会有志 花王 株式会社	広沢土地倉庫 株式会社 茨城県納豆商工業協同組合水戸支部 茨城県生命保険協会 株式会社 ソノリテ 有限会社 東プランニングルーム つくば草の根はりきゅう院	生活協同組合 パルシステム茨城 つくば秀英高等学校 NPO 法人 守谷ファミリークラブ つくいち実行委員会
---	--	--

いばらき未来基金へのご寄付内訳 (2013 年度)

寄付先	金額	合計金額に 占める割合	件数	合計件数に 占める割合	平均金額		
基金全体	¥561,432	41.2%	55	57.9%	¥10,208		
テーマ1: 「人々の自立やコミュニティをつくる活動」	¥2,000	0.1%	1	1.1%	¥2,000		
テーマ2: 「いばらきの未来を創る活動」	¥92,753	6.8%	3	3.2%	¥30,918		
テーマ3: 「地域のつながりを育む活動」	¥8,531	0.6%	3	3.2%	¥2,844		
コモンズの プロジェクト	¥20,042	1.5%	4	4.2%	¥5,011		
外国籍のこどもの教育支援プロジェクト	¥18,089	1.3%	3	3.2%	¥6,030		
NPO 法人とらい	¥26,355	1.9%	3	3.2%	¥8,785		
事業 指定 助成	テーマ1	NPO 法人茨城県酒つくばね会	¥6,707	0.5%	1	1.1%	¥6,707
		NPO 法人くらし協同館なかよし	¥15,500	1.1%	2	2.1%	¥7,750
		NPO 法人ひたち親子の広場	¥4,475	0.3%	1	1.1%	¥4,475
テーマ2		NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所	¥2,406	0.2%	1	1.1%	¥2,406
		つくば子ども劇場	¥16,020	1.2%	2	2.1%	¥8,010
		おもしろ!ふしぎ?実験隊	¥50,416	3.7%	5	5.3%	¥10,083
テーマ3		NPO 法人まちなか交友館まどか	¥8,000	0.6%	2	2.1%	¥4,000
		小田古民家再生保存の会・華の幹	¥31,000	2.3%	5	5.3%	¥6,200
	合計	¥160,879	11.8%	22	23.2%	¥7,313	
冠助成	花王・ハートポケット倶楽部 地域助成	¥500,000	36.7%	4	4.2%	¥125,000	
	合計	¥1,363,726		95		¥14,355	

助成金

公益財団法人 トヨタ財団	公益財団法人 茨城新聞文化福祉事業団
花王・ハートポケット倶楽部	一般財団法人 茨城県労働者福祉基金協会
社会福祉法人 茨城県共同募金会	パルシステム茨城 生活協同組合

ご支援、誠にありがとうございました。2014 年度も引き続きご協力お願いします。

e メール・アドレス漏洩事故とその後の対応についてのご報告

昨年 6 月 1 日、当法人より e メールの一斉送信による行事案内を県内の NPO 法人 229 団体と個人会員 26 名に送信した際、251 団体分の代表メール・アドレスと 51 名分の個人メール・アドレスが記載されたテキスト・ファイルが、暗号がかけられていない状態で添付されたまま送信されました。団体の e メール・アドレスのほとんどはホームページ等で公表されていましたが、所属と個人名がわかるアドレスも 30 件含まれていました。

問題が生じた要因と反省すべき点としては、当法人の個人情報保護規程に反し、個人情報の一部含まれる電子ファイルを職員間で暗号をかけない状態でやりとりを行ったこと、e メールに添付ファイルが付いていることを見落とし、一斉配信をしてしまったこと、個人情報に関する事故が起きたことに関する組織内での情報共有と対応が遅れたこと、個人情報保護に関する職員研修の頻度が少なく、管理・運用が徹底されていなかったことが挙げられます。

その後の対応策として、新たに個人情報保護管理者を定め、個人情報保護マニュアルとチェック・リストを導入しました。また個人情報保護に関する職員研修を開催しました。さらに、情報漏えいにつながるようなオフィス環境を改めるべく、業務改善プロジェクトを実施し、多くの支援者の方々から寄付金をいただき、写真にあるような業務環境改善に努めました。ご支援、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

今回このような事故を起こしてしまったことを、改めて深くお詫びするとともに、今後も継続して個人情報保護に努め、市民から信頼される組織作りに励むことを誓います。

